



イマジン
ロータリー

2022～2023 年度
国際ロータリーのテーマ

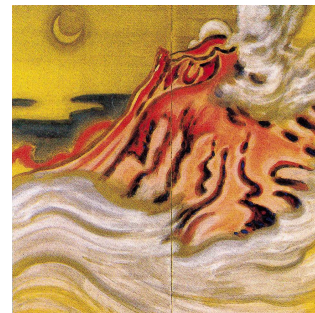
Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

◆例会日/週木曜日 12:30～13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 3 階

◆会 長 / 加藤 輝男 ◆副 会 長 / 朝倉 俊次
◆幹 事 / 鴨下 直哉 ◆広報・情報委員長 / 望月 完

NO. 1551 令和4年10月27日



◆点鐘	加藤 輝男 会長
◆SAA	川野 義春 委員
◆ソング	それこそロータリー

【会長挨拶】加藤 輝男 会長

皆様ご苦労様です。先日 10 月 23 日佐久コスモスロータリークラブの主催で佐久武道館に私と幹事の鴨下さんの二人で歩行ケア市民セミナーに行っておりまして。歩行ケアの計測と言いますが歩き方とかのアドバイスを専門家から聞いて参りました。

人間の体は歩く事によって健康寿命が延び歩き方によって姿勢が良くなり健康になって仕事も楽しく出来るという事の様です。私は右足が痛かったので歩きはしませんでした。が色々勉強をして参りました。

その後阿部県知事、柳田佐久市長のご挨拶がありました。その中で柳田市長に感心させられた事が2つありました。

1. いつも先見の目を市に向けている
2. いつも市民がどうすれば増えていくのか

この2つは市にとってとても大事な事だと思いました。上場の誘致とか大規模な店舗とかテナントを積極的に増やして佐久市がどのようにしたら延びてゆくのか人口が増えてゆくのかがいつも前向きな姿勢で考えてやっているのだと感じられました。

その後長野Jリーグのチェアマン村井満さんの「スポーツで豊かな地域社会に」と言う講演が 1 時間位のお話でした。リクルートの会社に勤めていましたがリクルートを退職その後Jリーグを立上げその苦労話とかその間いろいろサッカーを通じて世間に貢献出来た事、身体障害者福祉施設にJリーグの選手を連れて行き子供たちにサッカーを教えたり子供と一緒に試合をしたり話をしたり、障害者の子供達にやさしく接して細かい気配りをしていた事素晴らしい事だと印象に残っております。自分がJリーグを立上げサッカー選手を育てて来た事で傾聴力・協調性・団結力とかや

はり皆な全員で協力しあい練習を人一倍やり頑張らないと試合には勝てないと言う話でした。

その話を通じスポーツだけでなく自分たちの企業にも商売にも通じるところがあるのかと感じました。ポリオデーの寄付も鴨下幹事としっかりやって参りました。来客数は150名位だと思います。

本当に一日良い勉強になりました。

【幹事報告】鴨下 直哉 幹事

1. 週報

小諸、上田RC

- ・11月3日(木)法定休日の為休会
- ・11月10日(木)職場訪問「スリーアール長野」
例会 12:30～ 現地集合
- ・例会終了後理事会

【本日の配布物】

週報 1549・1550号、ロータリーの友 10月号

◆出席報告 黒澤 明男 委員

会員数	20名	出席義務者	20名	免除者	0名
本日		出席	15名		
		事前 MU	0名	75.00%	
前々回(10/6)		MU	0名	70.00%	

◆ラッキー賞

NO. 16 前田 博志 君

加藤 輝男君	先日の歩行ケア人間の健康寿命すごく大切な事だと思いました。ちょっと足が不自由なのであまり元気に歩けません。気が付けてゆきたいとおもっております。優秀なお医者様がいたら是非紹介して下さい。	橋詰 希望君	10月22日(土)高校の120周年で吉岡忍さん、青木理さんなどご活躍されている方々7目のディスカッションがあり、非常に貴重な楽しいじかんを頂きました。
黒澤 明男君	自己小伝をさせていただきます。	前田 博志君	黒澤さん今日はありがとう。
小池平一郎君	黒澤さんの自己小伝Ⅱを楽しみにしております。	川野 義春君	黒澤明男会員の自己小伝Ⅱ楽しみにしています。
		青松 英和君	今月の皆様のニコBOXへの協力感謝申し上げます。

【本日のプログラム】「自己小伝Ⅱ」 黒澤 明男 会員



サイパン、グアムが相次いで陥落して米軍爆撃機 B29 の本土飛来が本格化、学徒動員や竹槍訓練がさかんに行われていた太平洋戦争末期の昭和 19 年 11 月 3 日、私は南佐久郡旧穂積村(現佐久穂町穂積)に生まれました。

男 4 人、妹 1 人の 5 人兄弟の 4 男として生まれましたが、誕生日の 11 月 3 日は現在では「文化の日」、当時は明治天皇誕生を記念する「明治節」の祝日で大変目出度い日であったことから、「明治節」の“明”をいただいて“明男”と名付けられました。

兄弟の上 3 人がいずれも男児であったため、私が生まれるまでは「今度こそ、女の子!」と両親は内心密かに期待をしていたようですが、生まれた私がまたまた男児であったため、両親にはチョット残念で複雑な思いをさせてしまったと聞いています。

しかしながら、2 年後に私の次に出来たのが女の子、妹ですから、この時の両親の喜び、殊に父のそれは想像を絶することであったに違いありません。八千穂の野山を駆け巡り小川に遊んだのどかな幼年時代を過ごし、地元の高校を経て、東京の大学に進みました。本来田舎が性に合っていると大学在籍中から思っていたので、都会には大した未練もないまま、大学卒業後はストレートに故郷へ U ターン。父親や親族が関係する佐久通運(株)へ昭和 43 年春に入社しました。入社した佐久通運(株)は陸上貨物輸送の業務を中心とする会社で、法人設立は小海線(小諸～野辺山)信越線(滋野～信濃追分)と望月、芦田駅の 17 駅で営業していた。小運送店 17 業者が集り、昭和 17 年発足しました。本年で 80 年を数えます。小諸駅では帝中、土源、大塚運送店の 3 社が加わりました。17 業者のなかには江戸時代から続いている小運送店もありました。

私が入社の頃は、旧国鉄の貨物輸送がまだ全盛の時代で、佐久地方のこれらの仕事の大半を当社が引き受けておりました。そのため、信越線や小海線の旧国鉄沿線各駅周辺に営業所が 17 箇所、従業員も 300 名位いて現在とは違った意味で大変活気ある職場でした。

今ではあまり使われることはありませんが、当時は土方、馬方、蔵方の 3 つを気の荒い人達の職場として「天下の御三方」と呼んでいました。

当社には、その 3 つの内、馬方と蔵方の従業員が多くを占めていましたので、いつも活気に満ちたオール元気印の、まさしく男の職場そのものでした。ですから、その日の作業が終わる誰ともなく詰所に集まり、喉が焼き切れ、時には目がチカチカするような焼酎、合成酒を一杯二杯引っかけたのが誰もがの日課でした。毎日決まって酒が入るので、10 日に 1 度位は当時人気のあった TV 番組「ララミー牧場」や西部劇映画によく出てくる酒場で起こるような事件があつて

も珍しくありません。それでも、少しばかり気が荒いとは言え根は人の良い人達でしたので、翌朝はケロリ!として元気にまた作業に付いていました。こんな昔日の出来事も今では妙に懐かしい思い出となっています。

そんな独特な雰囲気佐久通運(株)へ入社した1年目の私は、小口や小口混載貨物を主に扱う発送場に配属され、2年目には車扱い貨物、貨車輸送貨物の受発送業務に従事しました。入社3年目を過ぎたころ、国鉄による貨物輸送の合理化、集約化問題が政府・国鉄当局から発表され、またトラックによる貨物輸送が今までの鉄道輸送に代わって年毎に増加するなど、貨物輸送そのものの構造大変革期を迎えようとしていました。

そのため、貨物輸送の本業以外にも新たな事業を展開し、経営の安定と発展を目論んで多角的経営に乗り出すことになりました。

まず最初に手掛けたのは不動産業、別荘地の販売で、当社が保有する軽井沢町信濃追分の山林分譲でした。時あたかも第一次リゾートブームが起きつつあった頃で、早速東京に販売事務所を開設、私が東京事務所長販売担当者になって駐在して営業を始めました。初めて売出した別荘地は坪当たり2万円前後のお買い得価格にもかかわらず、当初の思惑とは大きく違い、半年間以上はほとんど動きの無い状況が続きました。

ところが、夏を迎えると突如嵐のように商談が数多く舞い込み、売買契約は面白いように成立し、用意した分譲地はアツと言う間の完売でした。こうなると、人間の欲と勢いは最早押さえる事はできません。当然ながら所有の物件だけでは全く用が足りず、新たに周辺の土地を購入して第2次、第3次分譲と別荘地販売業務を拡大しました。

勢いとは全く恐ろしいもの。不動産業の成功に味をしめて、次には飲食サービス業に進出。東京代々木駅前にサラリーマン相手の居酒屋、続いて鉄道最高地点で人気スポットの小海線野辺山駅前にレストラン、更に信越線信濃追分、小海線中込駅前に飲食店を開業し、当社の多角的経営戦略は順風満帆でした。

昔から良い事は長くは続かないと言いますが、まさしく“好事魔多し”。昭和48年第1次オイルショックが日本全体を襲い、その影響をまともに受けた当社の別荘地分譲や飲食店も営業不振に陥って一気に形勢逆転、窮地に追い込まれることになってしまいました。

その結果、不動産業や飲食業の多くの部門を止む無く整理縮小、野辺山店1店のみを残すことになって、私の職場もハヶ岳の麓、野辺山へ移りました。ところが不思議なことに、唯一営業を継続した野辺山店にフォローの風が吹き始めたのです。それは、SLブームとアンノン族に支えられた清里・野辺山地区の爆発的な人気の沸騰でした。“塞翁が馬”とは、こういうことを指すのでしょうか。雑誌アンアン、ノンノン片手の若い女性客を先頭に、SLマニア、一般観光客がどっと押し寄せてきました。

そのため、昭和52年には業態をドライブインに変えて400名収容の店舗を新築。更に、大型観光バスの団体も全国各地から多数立ち寄るようになって、平成元年には収容人員800人の近在では規模も、設備も1番の大型ドライブインを誕生させました。

この間、売上も順調過ぎるほど順調で、当社の売上、収益面にも十分貢献できるようになっていました。私も自信に溢れる毎日でした。しかし、またまた異変が起きました。今度は、例の「バブル景気」の崩壊でした。バブルが大きく弾けて、景気の大幅な後退が急速なスピードで迫って来ました。同時に、観光客の消費性向にも変調がはっきりと見えるようになって来たのです。

例えば、団体のお客様を観光バスで送り込んでくれる旅行会社もバブル崩壊の影響で経営的に苦境に立ったことから、お客様を彼らから回して貰う弱い立場の私たちに多くの締付けや要求を押し立てるようになりました。特に斡旋手数料、いわゆるマージンの増額ははじめ立寄り料・看板料など回を重ねるごとにエスカレートして経営を次第に圧迫し始めました。

また、近所に競合するドライブインがオープンしたり、ホテル業者などが当社同様のサービスを開始するなど団体観光客争奪合戦の熾烈さは異常な様相を見せ、更に進行する観光客の観光バス離れ、オフ・シーズン入込み客の極度な減少、その上に追い打ちをかけた上信越自動車道開通による観光ルートの変更など、当社ドライブインの経営環境は悪化の一途を辿り始めました。

そのため、野辺山での長年にわたったドライブイン経営事業は平成11年で幕を閉じましたが、後ろ髪を引かれるとはこのことかと感じました。以上のように佐久通運(株)入社以降の私は本業の通運業の見習いから始まりました。国鉄の貨

物駅廃止に端を発して、別荘地販売、飲食店の開業、そしてドライブイン経営と、まるで木の葉が水の流りに弄ばれるかのように目まぐるしく変わる渦の中に身を置いて参りましたが、縁あって平成 11 年に当社社長に就任し現在 23 年目となります。

私が最初に着手したのは以前かう中途半端に残されていた問題を一刻も早く解消してトラック運送事業態勢の確立と、その他事業、不動産業、別荘管理事業、不動産賃貸業、小諸パーキングビル及び中込駐車場、駐輪場、保険代理業の更なる発展を図ることでした。そのためには、不採算部内の従業員やパソコンを操作出来ない事務職員の処遇問題を解決することでした。正直なところ、これが一番厄介で、出来るなら避けて逃げたいと思いましたが、それでも度重なる説明や交渉を経て、多くの理解を得ることが最終的に出来て、何とか至難のハードルをクリアすることが出来ました。

いずれにしても、末だに知識不足未熟な私ですが今後も「こんな時だから」の「こんな時」とは今、現在であると認識して精進してまいりますので、会員の皆様のご指導の程をお願いいたします。

仕事に関係することはこれ位にして、自分の趣味や興味を持っていることの話させていただきます。「山」と「川」は自称「セミプロ」です。漁師、猟師として山と川に入り大量に収穫して仲間に貰っていただくことを楽しみとしております。

犬の飼育も私の趣味の一つで、このところ 50 年間は長野県の天然記念物に指定されている川上犬の飼育をしております。なぜ川上犬かと言うと、こんなエピソードがあるからです。戦前から戦後にかけて私たち一族所有の建物に、昭和 37 年文化勲章受章の日本画家、奥村土牛画伯が疎開しておりました。画伯と父とは大変親しい関係であったことから、父は絵をよく描いてもらっておりました。

ある時、同じ犬年である父と妹の記念に犬の絵をお願いしました。父の依頼には比較的筆の早い画伯なのに何故か犬の絵に限ってなかなか上がって来ません。画商の間で有名な土牛百遍、千遍の通りでした。昭和 26 年に画伯は疎開を終えて帰京してしまいました。そこで、犬の絵が諦められない父は画伯に子犬を贈り、絵の完成を待つことしたのです。贈った子犬、それは当時何よりの宝物として可愛がっていた私の川上犬であったことは言うまでもありません。もちろん、飼い主の私には無断です。父が贈ったとは言え、私から子犬を残酷にも取り上げた画伯は私には「嫌な人」以外の何者でもありませんでした。本来は父をうらむべきと思いますが？

父が昭和 41 年、全国味噌協同組合連合会の理事長として藍綬褒章を受章した御祝としてやっと川上犬の画が完成したのは昭和 42 年の春でした。東京杉並の画伯宅へ画を戴きに伺った時のことは、複雑な思いとして心の底に蟠りが少し残っております。そんなことから川上犬に特別な拘りを持って、大切に育てている次第です。

最後に私の好きな言葉は“一期一会”です。私はこの世で人と人との出会いこそ、人生でもっとも貴重なものだと思います。多くの人に巡り会えたことに感謝し、ささやかな出会いもまた大事にしたい。機会あって、ロータリークラブの皆様方にお目にかかれたことも共に生きる縁であると感じて、より一層大切にしたいと思っております。

今後とも末長いお付き合いをよろしくお願い申し上げます。私の拙い自己小伝を終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。

次週のプログラム : 11月3日 法定休日の為休会

次々週のプログラム: 11月10日 「職場訪問」 スリーアール長野